

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名： 深澤 淳一 所属： 印西市立滝野小学校 記録日： 2017年2月18日

キーワード： 音韻意識の高まり 語彙や語想起

【対象児の情報】

○学年

小学3年生の男児 A児

○障害名

A児：読み書き障害の疑い

○障害の困難と内容

- ・文字から音声の変換に1秒ほどの時間が必要である。
- ・発表や発言の場面で、言葉を想起して言い始めるまでに数秒の時間が必要である。
- ・左手での筆記用具の扱いに慣れていないため、思い通りの形に書くのが難しい。
- ・文字を想起するのにも時間が必要である。
- ・読み書きともに、「き」と「ち」、「で」と「れ」、「しゃ」と「ひゃ」の混同がある。

【活動目的】

○当初のねらい

- ・わかる言葉を増やし、自分の思いを伝えやすくする。
- ・好きな本「かいけつゾロリ」を、読みでも楽しめるようにする。

○実施期間

5月から12月まで

○実施者

深澤 淳一

○実施者の対象児との関係

特別支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

【態度・意欲】

- ・意欲があり、指示を聞いて行動することができる。
- ・繰り返し行うことで活動に見通しをもつことができる。
- ・情緒をコントロールする力も向上し、我慢できることが多くなっている。
- ・一週間に1回くらいの頻度で、学習が自分の見通しと異なってしまった時や、自分が確実に正しいと認識しているものへの指摘や訂正をされたときに、泣きながら怒り、物を投げつけることがある。その後、一人でのクールダウン（10分程度）を経て、次の活動の切り替え場面に合わせて集団に戻って来ることができる。

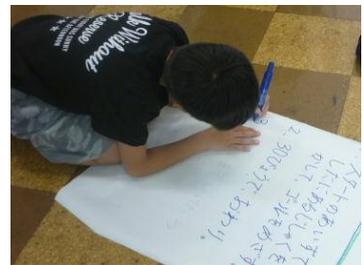
【読み】

- ・ひらがな、カタカナ、1年生の漢字を、一文字ずつ読むことができる。
- ・文章も一文字ずつだが読むことができる。
- ・知っている単語については、文節を意識した読みができるようになってきている。
- ・音読に慣れてくると、文章を似たような意味の言葉で置き換えて読んでしまうことがある。
- ・発音に気を付けることを念頭に置きながら読むときは、「き」と「ち」を正しく発音することができる。
- ・慌てて読むときに、語頭・語中・語尾のどの場所でも、「き」の発音が「ち」になってしまうときがある。
- ・他のk音とt音の混同はほとんどないが、「け」を、「け」と「ちえ」の間くらいの発音をすることがまれにある。
- ・促音、撥音、拗音、長音は、文字を正しく読んで発音することができる。
- ・教師と一緒に音読することで、読みの流暢性が向上する。
- ・文章の内容については、小学1年生の国語科の教科書の物語文を、2ページ程度理解することができる。
- ・挿絵やイラストを文章理解の手がかりにしており、挿絵のない文章、特に説明文の理解は難しい。
- ・文章を読んでいて、行を飛ばすこと、同じ行を再度読んでしまうことがある。
- ・単語の1文字目と2文字目を入れ替えて読んでしまうことがある。
（「花さかじいさん」を「花かさじいさん」）
- ・挿絵があることで、「かいけつゾロリ」や4コママンガ等を自主的に手に取り読んでいる。その時、絵を楽しむことが多い。



【書き】

- ・手の操作性は良く、ハサミを用いての絵の切り抜きや、紙面いっばいに絵を描くことができる。
- ・左利きのため、運筆方向の混乱がある。
- ・筆記用具の操作に慣れていないが、文字をなぞって書くことは得意である。
- ・書くのに時間がかかり、本人のイメージ通りの形がとれない。
- ・鏡文字になってしまうことがある。
- ・思い通りに書けず、鉛筆でぐちゃぐちゃに書いたり、用紙を丸めたりしてしまうことがある。
- ・誤学習のため、書き順や運筆の方向が、いつも同じように間違えてしまう文字がある。
- ・国語科の、書きに焦点をあてた時間のみ、もちかたくん（左利き用）を使って矯正している。
- ・消しゴムの使用も苦手で、思い通りに消せない時や、紙を傷めてしまうときがある。
- ・漢字を書きたくて進んで書こうとするが、音を頼りに書いてしまうため誤用がある。
- ・促音の表記を忘れてしまうが、指摘すると書き加えることができる。
- ・毎日、生活を振り返り、3文（45文字程度）の文章を書くことができる。



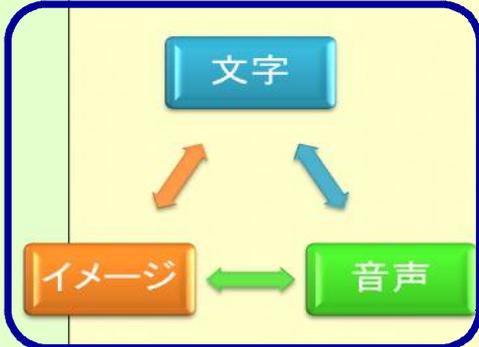
【語彙や語想起】

- ・話したいことがあるが、適切な言葉を想起しているうちに忘れてしまい、「やっぱり、ない。」で済ましてしまうことがある。
- ・じっくりと待つことのできる相手には話すことができるが、1つの単語で済ませてしまうことも多い。
- ・読むときに、次の文字の音を想起するための時間が必要なため、一文字の読みが長くなる。
- ・普段の生活でよく用いるものの語彙は、身についてきている。

○活動の具体的内容

- ・同学級に、iPadに気になり過ぎて学習に取り組めない児童が在籍していたために、使用は1週間に数分のみと制限があった。
- ・在籍校近辺のネット環境は整備中で、校内での回線速度は3Gであった。そのため、「NHK for School」などの動画を用いた先行学習はできなかった。
- ・このような実態から、次のページのような取り組みを行った。
- ・制限された使用時間にiPadの操作方法とアプリの使い方を学んだ。
- ・マイクロソフトのアクセシビリティホームの中の「そうか!チャート」を活用し、『生徒の読み書きの困難は』→『主として「読み」の中にある』のフローチャートの、アナログ的に支援を参考にした。
- ・主に音韻意識を高めることと、語彙数を増やすことをねらいとして、家庭ではiPadを使用して学

習し、学校ではアナログ的な方法で対象児の実態に応じた学び方で学習した。

学校で	家庭で
<p>iPadに親しむ</p>	<p>音韻意識を高める・語彙数を増やす</p>
<p>○「カメラ」アプリと「アルバム」のアプリの活用</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・音楽専科教諭のリコーダーの模範演奏の動画撮影 <ul style="list-style-type: none"> →毎日、見ながら練習 →音楽科の授業で吹ける！ ・社会科見学で八方位の景色を対象児が撮影 <ul style="list-style-type: none"> →交流学級の社会科の授業で利用  <ul style="list-style-type: none"> ・運動会の模範演舞の動画撮影 <ul style="list-style-type: none"> →毎日、見ながら演奏練習 →運動会で上手に踊れる！ 	<p>○アナログで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読み書きが苦手な子どもへの基礎トレーニングワーク」  <p>出版元：明治図書</p> <p>原作が同じため「わかる」「できる」が連続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「語彙力アップ・パズル」 <p>視覚的なイメージをヒントにクロスワードを解く</p> <p>出版元 実務教育出版</p>  <p>◎得意な視覚の力を活用して、「文字」と「イメージ」と</p>  <p>「音声」の一致が進む。</p>
<p>本を読む習慣づくり</p> <p>○音読の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞く。 ・真似をして読む。(少しずつ一回の量を増やししながら) ・交互に読む。(少しずつ一回の量を増やししながら) ・教師と一緒に読む <p>○読み聞かせを聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今読んでいる本 ・読みたい本 <p>○図書室利用の習慣化</p>	<p>誤学習の修正</p> <p>「ひらがな」アプリ</p>   <p>「ひらがなーたんご」アプリ等</p>

○対象児の事後の変化

【態度・意欲】

- ・「ゾロリ」シリーズの他の本にも、手を出して読むようになった。
- ・教師に、わからない文字を尋ねられるようになった。
- ・教師からの訂正を、素直に受け入れられることが増えた。

【読み】

- ・文字を読み上げるまでの時間が短くなった。
- ・単語や文節として、まとめて読み上げる言葉が増えた。
- ・「き」と「ち」をはじめとする混同していた文字が減った。

【書き】

- ・文字を想起するまでの時間が短くなった。
- ・字形が整うようになった。
- ・運筆が速くなった。
- ・文字の大きさが、升目や枠に応じてそろうようになった。
- ・自分から漢字を使うようになりその数も増えていった。
- ・選択肢から選んで書くようにすることで、既習の漢字の10問テストでは、9割を正しく選択することができた。
- ・読みで混同していた文字の書き間違いが減少した。そのため、次の課題となる、長母音や促音や拗音の書きについて学習できるようになった。



【語彙や語想起】



- ・話したいことを時系列に沿って思い出しながら話すようになり、最後まで話し終えることが増えている。
- ・進んで話す相手が、隣の学級の担任、介助員、交流学級の担任と増えている。
- ・1つの単語で済ませてしまうのではなく、3語程度の短文を、3文程言うことができるようになった。
- ・読むときに、次の文字の音を想起するための時間が減って、読みの流暢性が出てきた。
- ・発表や会話の中で、語彙が増えている。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

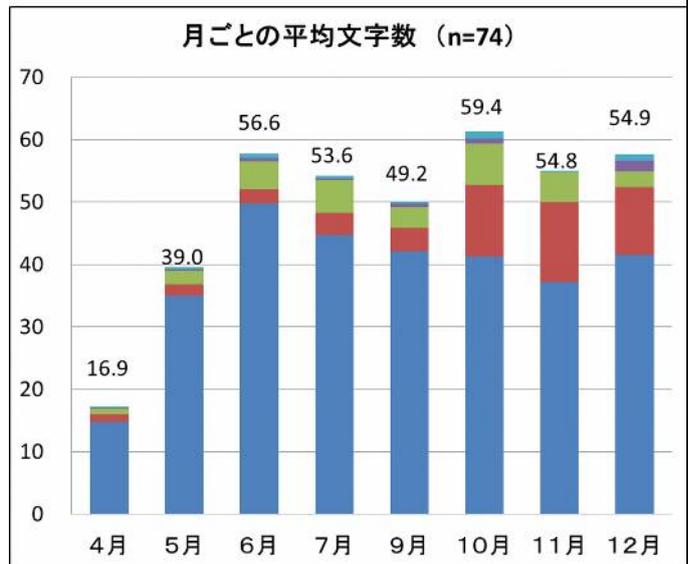
- ・文章などを読む時に、単語や文節をまとまりとして捉え、教師の範読と同じ速さで読むことができるようになった。
 - ・読み聞かせを聞いている時に、内容に応じて笑うことが増え、終わるとすぐに自分から初発の感想を述べるようになった。
 - ・内容を誤解して捉えてしまった友達に「そうじゃないよ。〇〇じゃないの」等、的確に助言できるようになった。
 - ・テンポの良い言葉のキャッチボールをしている場面が多くなった。
- 意味の分かる言葉が増え、言葉で理解し考える力が育ったことと、自分の思いをタイミングよく伝えることができるようになったと考えられる。
- ・「ゾロリシリーズ」の本を読んでいて、絵に加えて文章を読んで楽しめるようになり、文章を読むためにそのページにとどまる時間が長くなってきている。
 - ・1冊の本を手に取り、読んでいる全体の時間も増えている。
- 「ゾロリシリーズ」の本を、読みでも楽しめていると思われる。

○エビデンス

(4月から12月の日記の表記文字数)

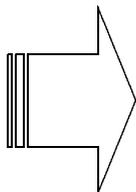
右図：「月ごとの平均文字数」の解析から)

- ・4月当初は1行(13文字)を書くのに苦労していたが、書く力が高まり1枚の用紙におさまらなくなる程となった。
- ・50～60文字を、毎日無理なく書けるようになった。
- ・その後、読むことはできても想起に時間がかかり書くことができなかつた漢字を、使用するようになってきている。
- ・実際の日記の変化



4月

草
と
り
ち
が
ん
ば
り
ま
し
た。



12月

か	た	考	体	く
り	。	本	で	立
ま	世	体	で	月
し	世	去	マ	ニ
た	フ	で	ラ	田
。	ぎ	ハ	ン	水
。	ば	ー	ン	よ
。	ム	ム	を	う
。	ッ	ル	が	日
。	シ	を	ん	
。	ホ	カ	ば	
。	ー	リ	ソ	
。	ル	ま	ま	
。	を	し	し	



日記を書いている様子

(URAWSSの結果の比較から)

- ・ 日記では、7月から書く量は一定の数値でとどまっているが、URAWSSでは書字速度が上がっていることがわかる。
- ・ 有意味文と無意味文に差が出てきた。言葉に意味がある方が書きやすいことがわかる。
- ・ 読み速度も上がり、内容の理解もできるようになってきたことがわかる。
- ・ 検査実施中、課題の文章を「書字」と「読み」共に、文節や句読点で区切って読んで回答をしていた。

表 URAWSS集計結果

1分間の書字速度	7月	12月
書き課題(有意味文)	10 字	17.7 字
書き課題(無意味文)	10 字	13.3 字
1分間の読み速度	7月	12月
読み課題	105 字	153 字
内容理解	2 問 / 6 問	5 問 / 6 問

○その他エピソード

- ・ 書くことへの困難さが減り、自信もついてきたようなので、書写の授業も進んで交流学习で行うようになった。
- ・ 1枚目を書く時は意欲と集中力の高まっているため、大きさ、形、配置のバランスに気を付けることができた。
- ・ 年末には、体育館のフロアで交流学級の皆と一緒に書き初めをした。名前を書く時には、以前は下の名前をひらがなで書いていたが、画数の多い漢字にもかかわらず、氏名を漢字4文字で書こうとしている。
- ・ A児の「独力で、漢字で名前を書きたい!」という思いを実現できるように、毎日の学習内容に、氏名を書く学習も行っている。



- ・ 音楽科の交流学习の場面では、皆と同じようにリコーダーが演奏し、合唱の時に歌うことができたようになった。
- ・ 他の楽器の演奏も、自分からやりたいと言ってするようになった。

【これからの方向性】

- ・ AccessReadingに年度当初に申請していた教科書のデータのテキスト化が12月末終わりダウンロードできるようになったので、「iBooks」アプリを用いて利用する練習を始めている。来年度より、在籍校にタブレットPCの整備が始まるので、その利用をふまえた環境整備を行っていく。
- ・ 同学級のiPadの苦手な児童にiPadに慣れる指導を行い、A児が学級でICT機器を安心して利用できる環境を整える。
- ・ 通常学級に在籍する読み書きの困難のある児童の苦労を軽減するために、「そうか！チャート」の活用を促す職員研修や保護者への提案に力を入れる。